

後期	④ 世界の人々の生活 グローバル化する社会をとらえる□	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	世界恐慌、アジア・アフリカと大衆社会、国際協調体制の崩壊、日中戦争と深刻化する世界の危機、第二次世界大戦の勃発、連合国の戦後構想、アジア太平洋戦争と日本の敗戦、連合国の占領政策と冷戦、再編されるアジアの冷戦	第4回	10月29日	10月3日	10月17日	10月24日					
	⑤ 地球的課題をとらえる 環境と食料の問題をみる□	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	冷戦の拡大と第三勢力、キューバ危機と核兵器の管理、脱植民地化の進展と地域紛争、計画経済と開発、冷戦下の日本とアジア、先進諸国の経済成長、地域連携の拡大、ベトナム戦争と冷戦構造の変容	第5回	11月26日	10月31日	11月7日	11月14日	11月21日				
	⑥ 持続可能な地域づくり 自然環境と防災をとらえる	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	石油危機と経済の自由化、アジアの経済発展と日本、冷戦終結と世界、拡散する地域紛争、民主化の進展、グローバル化と地域統合、岐路に立つ世界と日本	第6回	12月24日	11月28日	12月5日	12月12日	12月19日				
	定期考査	後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表											

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。Bのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。また再提出されたレポートは合格のレベルに達していても評価が下がる。
D	再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ライン(地理総合は70%以上)に到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が70%以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
様々な地図の読図などを基に国内や国家間の結び付きなどについて理解し、地図などを用いて情報を収集し読み取りまとめる基礎的・基本的な技能を身に付けようとしている。	現代世界の地域構成について、国内や国家間の結び付き、地図の活用の仕方などを多面的・多角的に考察し表現しようとしている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、課題を解決し世界の諸地域の多様な生活文化を尊重する態度を養おうとしている。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
レポート評価点・定期考査点・スクーリング出席を換算し、評定は1～5の5段階で行う。評定2以上で単位修得。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。

使用教科書：（ 新詳地理探究 帝国書院 ）

副教材：（ 新詳地理探究学習書 NHK出版 ）

教科 地理歴史

の指導目標：

- (1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するために、高校地歴科・公民科の科目と関連付けて多面的・多角的に考察することができる。
- (2) 地理や歴史に関わる諸事象を理解したり、諸課題を解決するために読み取った様々な情報から課題を発見し、まとめたり論述したりすることができる。
- (3) 平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付け、よりよい社会を実現するために、主体的に学習に取り組むことができる。

科目 地理探究

の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
地理に関する事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題を理解するために、「公共」などの公民科の科目と関連付けて多面的・多角的に考察することができる。	持続可能な社会づくりなどの地理的な諸課題を解決するために、地図や地理情報システム、情報通信ネットワークなどを用いて読み取った地理的情報から課題を発見し、まとめたり論述したりすることができる。	グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付け、よりよい社会を実現するために、主体的に学習に取り組むことができる。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
「地理総合」履修後に履修すること。	3	年 9通	年 3回以上	※

	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポート	提出期限				スクーリング	備考
					1回	2回	3回	4回		
前期	① 世界の自然環境	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	世界の自然環境について、諸資料から読み取り、理解すること	第1回	5月21日	5月2日	5月9日	5月16日		
	② 世界の農牧業と食料問題	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	世界の農牧業と食料問題について、諸資料から読み取り、理解すること	第2回	6月11日	5月23日	5月30日	6月6日		
	③ エネルギー資源と工業	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	エネルギー資源と工業について、諸資料から読み取り、理解すること	第3回	6月25日	6月13日	6月20日			
	④ 人口および村落・都市	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	人口および村落・都市について、諸資料から読み取り、理解すること	第4回	7月9日	6月27日	7月4日			
	⑤ 民族と国家の領域	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	民族と国家の領域について、諸資料から読み取り、理解すること	第5回	7月23日	7月11日	7月18日			
	定期考查	前期試験 9月の土曜	試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表							

後期	⑥ 東アジアの地誌	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	東アジアの地誌について、諸資料から読み取り、理解すること	第6回	10月22日	10月3日	10月10日	10月17日						
	⑦ モンスーンアジアの地誌	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	モンスーンアジアの地誌について、諸資料から読み取り、理解すること	第7回	11月12日	10月24日	10月31日	11月7日						
	⑧ 乾燥アジアとアフリカの地誌	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	乾燥アジアとアフリカの地誌について、諸資料から読み取り、理解すること	第8回	12月3日	11月14日	11月21日	11月28日						
	⑨ 欧米の地誌	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	欧米の地誌について、諸資料から読み取り、理解すること	第9回	12月24日	12月5日	12月12日	12月19日						
定期考査		後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表												

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。
D	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ライン(地理探究は70%以上)に到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が70%以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解している。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、表現できる	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養おうとしている

評定の方法など(前期評価・後期評価)
定期考査点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。

後期	④ 経済危機と第二次世界大戦	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	世界恐慌、アジア・アフリカと大衆社会、国際協調体制の崩壊、日中戦争と深刻化する世界の危機、第二次世界大戦の勃発、連合国の戦後構想、アジア太平洋戦争と日本の敗戦、連合国の占領政策と冷戦、再編されるアジアの冷戦	第4回	10月29日	10月3日	10月10日	10月17日	10月24日						
	⑤ 冷戦と世界経済	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	冷戦の拡大と第三勢力、キューバ危機と核兵器の管理、脱植民地化の進展と地域紛争、計画経済と開発、冷戦下の日本とアジア、先進諸国の経済成長、地域連携の拡大、ベトナム戦争と冷戦構造の変容	第5回	11月26日	10月31日	11月7日	11月14日	11月21日						
	⑥ 世界秩序の変容と日本	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	石油危機と経済の自由化、アジアの経済発展と日本、冷戦終結と世界、拡散する地域紛争、民主化の進展、グローバル化と地域統合、岐路に立つ世界と日本	第6回	12月4日	11月28日	12月5日	12月12日	12月19日						
	定期考査	後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表													

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。Bのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。また再提出されたレポートは合格のレベルに達していても評価が下がる。
D	再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ライン(歴史総合は80%以上)に到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が80%以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事情を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。	近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、左の諸事情と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現できる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養おうとしている。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
レポート評価点・定期考査点・スクーリング出席を換算し、評定は1～5の5段階で行う。評定2以上で単位修得。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。

使用教科書：（ 日本史探究 東京書籍 ）

副教材：（ 日本史探究学習書 NHK出版 ）

教科 地理歴史

の指導目標：

- (1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するために、高校地歴科・公民科の科目と関連付けて多面的・多角的に考察することができる。
- (2) 地理や歴史に関わる諸事象を理解したり、諸課題を解決するために読み取った様々な情報から課題を発見し、まとめたり論述したりすることができる。
- (3) 平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付け、よりよい社会を実現するために、主体的に学習に取り組むことができる。

科目 日本史探究

の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
「歴史総合」履修後に履修すること。	3	年 9通	年 3回以上	※

	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポート	提出期限				スクーリング	備考
					提出	提出	提出	提出		
前期	①先史社会・律令国家の形成・白鷺文化	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	先史社会・律令国家の形成・白鷺文化について諸資料から読み取り、理解すること	第1回	5月21日	5月2日	5月9日	5月16日		
	②平城京と天平文化・中世日本の国際交流	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	平城京と天平文化・中世日本の国際交流について諸資料から読み取り、理解すること	第2回	6月11日	5月23日	5月30日	6月6日		
	③武家政権の成立と朝廷、武家支配の広がりや国際交流、室町文化	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	武家政権の成立と朝廷、武家支配の広がりや国際交流、室町文化について諸資料から読み取り、理解すること	第3回	6月25日	6月13日	6月20日			
	④織豊政権・桃山文化・参勤交代・幕藩体制・江戸時代の対外関係	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	織豊政権・桃山文化・参勤交代・幕藩体制・江戸時代の対外関係について諸資料から読み取り、理解すること	第4回	7月9日	6月27日	7月4日			
	⑤文治政治・享保の改革・幕藩体制の動揺	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	文治政治・享保の改革・幕藩体制の動揺について諸資料から読み取り、理解すること	第5回	7月23日	7月11日	7月18日			
定期考查	前期試験	9月の土曜	試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表							

後期	⑥開国と開港・明治維新・制度改革・東アジア世界	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	開国と開港・明治維新・制度改革・東アジア世界について諸資料から読み取り、理解すること	第6回	10月22日	10月3日	10月10日	10月17日						
	⑦立憲政治・日清戦争・資本主義の成立・日露戦争	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	立憲政治・日清戦争・資本主義の成立・日露戦争について諸資料から読み取り、理解すること	第7回	11月12日	10月24日	10月31日	11月7日						
	⑧昭和恐慌・立憲政治の動揺・戦時体制への移行・占領と改革・高度経済成長	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	昭和恐慌・立憲政治の動揺・戦時体制への移行・占領と改革・高度経済成長について諸資料から読み取り、理解すること	第8回	12月3日	11月14日	11月21日	11月28日						
	⑨1970年代の国際社会・激変する世界と日本・21世紀の日本・現代日本の課題	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	1970年代の国際社会・激変する世界と日本・21世紀の日本・現代日本の課題について諸資料から読み取り、理解すること	第9回	12月24日	12月5日	12月12日	12月19日						
	定期考查	後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表												

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。
D	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ライン(日本史探究は80%以上)に到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が60%以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができる。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができる。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
定期考查点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。

後期	⑥ 諸地域の交流と再編・主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大 国民国家と近代社会の形成	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	諸地域の交流と再編・主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大・国民国家と近代社会の形成について、諸資料から読み取り、理解すること。	第6回	10月22日	10月3日	10月10日	10月17日						
	⑦ 世界市場の形成とアジア諸国の変容 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	世界市場の形成とアジア諸国の変容、アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行について、諸資料から読み取り、理解すること。	第7回	11月12日	10月24日	10月31日	11月7日						
	⑧ 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦・第二次世界大戦と戦後の東アジア	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	第一次世界大戦の展開と諸地域の変容・国際協調体制の動揺と第二次世界大戦・第二次世界大戦と戦後の東アジアについて、諸資料から読み取り、理解すること。	第8回	12月3日	11月14日	11月21日	11月28日						
	⑨ 冷戦の世界化と国際制度・冷戦の変容、終結と経済のグローバル化 21世紀の地球的課題と人類社会	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	第一次世界大戦の展開と諸地域の変容・国際協調体制の動揺と第二次世界大戦・第二次世界大戦と戦後の東アジアについて、諸資料から読み取り、理解すること。	第9回	12月24日	12月5日	12月12日	12月19日						
定期考査	後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表													

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。
D	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ライン(世界史探究は80%以上)に到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が80%以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解している	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、表現できる	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養おうとしている

評定の方法など(前期評価・後期評価)
定期考査点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。